

痛みとリハビリテーション

2単位

担当教員:松原 貴子

痛みに苦渋する人が非常に多い中、痛みの本質を知り、その対処法を学ぶことは自身や患者・対象者を守ることに繋がる — 知っていて損はない役立つ生体情報を学ぶ

講義目的・到達目標

痛みの病態メカニズムと痛み治療・管理について学ぶ

痛みは老若男女、疾患を問わず共通した訴えであり、医科学の広範領域に関連することから、世界的には「疼痛医学」として一学問領域が確立されつつある。疼痛医学におけるリハビリテーションを中心に、痛みが発生するメカニズムを理解し、さまざまな病態にあわせたアセスメントとマネジメントについて学ぶ。

講義の構成

講義の流れ

講義とグループ討議を行う。講義を受けて、グループ討議では自由討論を展開し、自身の意見をまとめ他者の意見を交えて討議する。

1 「痛み学入門」(松原)

講義のポイント

講義では、できるだけ身近に経験したことのあるような例を多数紹介し、医療専門家でなくても理解しやすい内容で構成している。また、講義途中でも質疑応答を行うことで双方向性の講義を目指している。

2 「身体を動かさないことの弊害」
(ゲスト講師)

ゲスト講師の沖田実先生（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・理学療法士）は、動物実験医学や組織学・生化学的な実験手法を中心とした基礎医学的研究に精通し、痛みについての研究も精力的に進められている。

3 「痛み医療最前線：
痛みのリハビリテーション」(松原)

沖田先生には「身体を動かさないことの弊害」として、(1)「関節が固くなる」、(2)「筋肉が痩せる」、(3)「不動性の痛み」、(4)「身体を動かさないことの弊害」のテーマで講義いただく。

4 「グループ討議」

5 各グループの発表

受講するにあたって

①参考図書 松原貴子・沖田実・森岡周『ペインリハビリテーション』三輪書店、2011

②評価基準 筆記レポートをもとに評価する。

③より学びを深めるために 双方向性の講義において、討議に積極的に参加していただきたい。